

まだまだ素人です。

先々月アメリカ広葉樹のブラックウォールナット原木を7本買い付けしました。昨年度2本製材し、一昨年度1本製材し、今年でブラックウォールナット原木の製材本数は10本となりました。

また、アメリカンブラックチェリーの原木を今年3本製材しました。一昨年度1本製材しましたので合計4本となります。アメリカ広葉樹原木を製材した本数が今年で10本を超えたのですが、何とか私流の同産地の原木の製材の方法が少し解かりつつあるのかなと思っています。

同じ温帯広葉樹には産地が色々有ります。まず国産の広葉樹です。中国産広葉樹です。ロシア産の広葉樹です。そしてここで取り上げたアメリカ産広葉樹です。この四つの産地の広葉樹原木を製材したのですが、アメリカ広葉樹は他の広葉樹原木と凄く違う性質があるのです。

それは原木の年齢と申しましょうか樹齢が全く違うのです。アメリカ産広葉樹を除く3つの産地の原木の樹齢は大体最低150年以上経っていますが、アメリカ産広葉樹の樹齢は80年～100年です。と言う事は目が荒いのです。この目の荒さは木材を知らない方でも人目で解かります。木に触れる時、一般の方は原木に触れるチャンスは少ないです。しかし製材品なり完成品の家具を見る機会は有ると思います。その時、板の表面と言いましょうか、家具の表面しか見ないですよ。木口面は見ないですよ。是非木口面を見てください。もし4種類の家具（テーブル）が見られる家具屋の展示場に行くチャンスが有れば、是非木口面を見てください。見ていただくとアメリカ広葉樹の目の荒い事が解かると思います。この目の荒さが製材するときの注意点なのです。

原木はそのまま使えません。製材と言う技術で板材に変わりますが、それは応力との戦いなのです。如何に上手く応力を抜くのが、製材品の使い易さと狂いの少ない商品を作る事に結びつくのですが、アメリカ産広葉樹は何故かこの応力を抜く作業をしているとき、芯側で細かい割れが発生するのです。ピリピリと言う音が聞こえる場合も有ります。

何故細かい割れが発生するのでしょうか。皆様は不思議に思いませんか。私の感想ですが、目の荒い広葉樹原木を製材する時起こる現象だと思っています。2年ほど前に樹齢120年位の少し細い直径40センチ位の北海道日高産タモ原木を8本製材したのですが、アメリカ産広葉樹原木よりは目が細かったのですが、その時も同様のピリピリと言う割れを体験しました。しかし同じ仲間の樹齢250年以上の中国産広葉樹原木・ロシア産広葉樹原木ではこの現象は発生しません。

我々材木屋は昔から木を見る時に目の荒い細手の原木を『木が若い』と言う表現をしています。木が若いと言う表現は樹齢がさほど経過していないと言う意味です。例えば樹齢200年生のウォールナット原木と樹齢100年生のウォールナット原木が有るとします。後者の方が若い訳です。木は若ければ板にする時、どうしても狂いが発生します。しかし狂いの少ない板を作る為には、技術が必要です。その技術を駆使するとき、芯側でピリピリと言う音を立てて細かい割れが発生するのです。割れが発生してもそれを綺麗に落せば使えます。用は狂いの少ない板を作るのが大事なわけです。

一般に老いた木の方が良い材質だと承知しているのは材木屋だけだと思いますが、既に高樹齢の良質材が無くなってきている事は事実です。その傾向は全ての樹種に及びかけています。そういう環境で皆様に木の良さを味わって頂くためには多くの知識・経験が必要になってきます。日々の仕事が勉強なのです。



ウォールナット原木



チェリー原木

コンペ・アンケートの途中経過

約10社の方からコンペの参加申し込み又は問い合わせのご連絡を頂きました。誠にありがとうございます。少し具体的に進めたいと思いますが少し服部新聞第50号の原稿の書き方が悪い為に購読者の方に誤解を与えているのではないかと思います。そこで今回のコンペの考え方をここでもう一度書かせて頂きます。

私は材木屋です。建築屋ではございません。と言う事は請負業者ではございません。しかし木材の様々な情報を持ち合わせています。その情報とは以下の9点です

- 1、木材の良し悪しの見分け方。
- 2、木材の適正価格。
- 3、是非使っていただきたい構造材のスギ・ヒノキ材を製材しているメーカーが出品している市場の見学に行けますと言う情報。
- 4、プレカット工場にも多くの特徴が有り、工務店の皆様は情報を多く持ち合わせていると思いますが、物件に有ったプレカット工場と一緒に探せる情報を持ち合わせています。
- 5、様々な木を使いたいと思われているかも知れませんが、適材適所の木材の使い方を知っていると言う情報。
- 6、フルオーダーの無垢のキッチンを適正価格で作れるメーカーを知っていると言う情報。
- 7、今流行の薄型テレビ対応の100%オーダーのテレビボードを作ってくれるメーカーの情報。
- 8、小回りが利く木工所の様々な情報
- 9、材木屋ならではの情報

私は以前知り合いの建築士の方に聞いた事が有ります。図面と言う物は、以下の事で大よそ書けるのですと聞きました。

- 1、土地の様子。道路がどの方向に面しているのか。太陽はどの方向から出て、どの方向に沈むのか。
- 2、住まわれる方の年齢・職業・家族構成・趣味・年収等の情報
- 3、住いを建てる方の人生哲学

1~3の情報を少なくとも3ヶ月間多くて半年位の時間を掛けお施主と建築士が家を建てる現場に出かけたり、住い作りに役に立つイベントが催されていたら一緒に出かけたり、又日常生活でお茶を飲んだり食事をしたりして導き出すのだと聞きました。そうすると勝手に図面が頭の中に出てくるし、又そうでなければ建築士として社会的責任を果たせないとも言われていました。しかし懇意にしている私に色んな事を教えて頂いた建築士さんは、高齢で現在現役を離れていますので今回のコンペの案内は差し上げていません。

今回のコンペの目的は建築士さん・工務店さん・材木屋・各協力業者の方たちと新しいビジネスモデルを構築したいと言う私の思いから企画しました。

服部新聞50号に使用したい部材の一部を少し列挙していますが、この程度の項目で設計は出来ないと思いますが、あくまで最低使っていただきたい部材のたたき台です。しかしただの、たたき台ではございません。森林の事も考え、技術者の育成も考え、未来の住い作りの事も少しは考えたつもりです。日本の伝統文化を上手く後世に残す事も考えました。

今回のコンペの成果をただ単に服部商店の為に使うつもりは全く有りません。この情報を全面公開したいと思っています。そして建築士・工務店・協力業者の皆様新しい何かを見出していただき、おおいに活用していただきたいと思っています。

別紙アンケート用紙を用意しています。このコンペを成功させたいと思います。是非協力して具体的アドバイスを頂ける事を御願います。

人との真面目なお付き合いを大事にしている本当によかったと思います。

小生は生粋の雑木屋の材木屋です。私から木材を取ったら何も残らない男でございます。私の哲学は『当たり前』の事を当たり前にする。』です。その中でも大事にしているのが、人と人との繋がりを大事にすることです。

今回私の得意先の長野県松本市で木工をされている井藤家具工房の井藤昌志様が**天然生活**と言う雑誌で取りあげられるから協力して欲しいと依頼が有り協力いたしました。次のページが原稿の一部です。

オーバルボックスで使われている木の話

井藤さんが材料を仕入れ、「日本一の材木屋」と太鼓判を押す、大阪「服部商店」の服部さん。
確かな技術に裏づけられた製材作業を見せていただきながら、日本の木材事情について伺いました。

木工作家 井藤昌志さん × 材木屋・服部商店 服部雅章さん



「木は人間と一緒に。悪い部分を補い、いい部分を伸ばす。その見極めが製材の技術」

「服部商店から購入した木材は、本当に美しく、隅から隅まで使えるからむだがない」という井藤さん。木は本来自然のものなので、節や歪みがあり、伐採後の乾燥で反りや割れが生じるもの。けれど、それぞれの木の特性を見極める目（目利き技術）と、その木材を必要としている人に適切な形で手渡す腕（仕分け技術）がしっかりしていれば、その欠点は極力抑えられ、木がもつ力を最大限に引き出し、長く幸せな形で生かすことができる。この道に入ってから30数年、木ひと筋の服部さんには、そんな信念があります。

「日本の製材技術は世界一」といわれている。それなのに、木を切り出し製材する人たちも、国産の木も、年々減少していて、その技術の伝承が難しくなってきた（井藤さん）と服部さん。

高度経済成長が日本の山の風景を変えた

「服部商店」がある岸和田市にも、かつては多くの材木屋がありました。現在は、その数が激減してしまいました。その理由は、前ページにあるような、日本の森林の荒廃にあります。

それまで山の経済活動は、木が育つ数十年から100年を単位に、ゆっくりと進んでいました。とこ

ろが戦後の急速な経済の発展によって、それが大きく崩れてしまったのです。大手住宅産業は大量生産・大量消費の波に乗り、マイホームブームをおおって多くの建売住宅を売りに出しました。その原料として、安く安定した外国産の木材を大量に輸入したのです。せっかく植林されたはずの国産材は値が下がり、「木を切れば切るほど赤字」という状態に。森林で生活していた人の多くが不便な山を離れて街に移住し、大規模に植林された針葉樹の林の世話をする人がいなくなり、多くの製材所も閉鎖を余儀なくされてしまいました。

製材現場を見せていただきました



①原木（丸太）の状態から、購入する木を選ぶ井藤さん。②製材前に、刃物が付いたリフトで皮をむく。③④⑤製材機にかけ、板状にカット。⑥⑦割ったときに木が内側へ反ろうとする力（応力）をうまく抜くと、反りがなく、むだのない美しい材木に仕上がる。木は一本一本、条件が違うので、この見極めが非常に難しく、職人技が要求される。⑧板状になった木を最低1年寝かせ、水分を抜く。間に挟む横木を細かく入れるほど歪みは少なくなる。



いふじ・まさし

長野・松本在住の木工作家。飛騨高山で家具づくりの修業をしたのち、2003年、「イフジ家具工房」を設立し、作家として独立。シェーカーの家具や日用品の「写し」や、古材を使った家具が話題に。妻の万紀子さんとともに、松本市内でカフェ・ギャラリー「ラボラトリオ」を営んでいる。http://www.ifuji.net/

人と人の繋がりを大事にしてきた事が結果的に雑誌に取り上げて頂いた事に深く感謝いたしております。勿論井藤様のご好意には感謝感激しております。

木材を知っているとは

私は色々な種類の原木を製材しています。そして会社全体では製材日誌を付けて年トータルの数字は出していますが、正確な自分自身で製材した樹種別の本数が解かる内部資料など有りませんが、記憶を辿れば樹種ごとの製材本数のランクづけは出来ると思います。このランク付けを思いついたのは、アメリカ広葉樹のブラックウオールナット・ブラックチェリー原木を製材している最中でした。この2樹種は3年ほど前から手がけた樹種ですので経験が十二分にあるとは言えません。従って経験豊富な樹種より念入りに、頭の中を整理していました。何処の面に最初に鋸を入れるか、どう言う方法で製材していくのか、どの位で芯節が出るのか、元の割れの影響はどの程度あるのか、末の割れはどの程度影響あるのか、曲がりの影響はどの程度か、芯の出来はどうか、等々色々な事が起こるのを想像しながら製材に臨んでいました。その時樹種ごとの製材ランクを作ってみてはと思いついたのです。

ある程度製材実績の有る樹種なら、欠点が出ても目を凝らして見て欠点の大きさ、位置関係をみて考えて色々な挽き分け技術を駆使してカバーできますが経験が未熟な樹種の場合は良く似た樹種の過去の想いを遡って決断して製材を進めていくのです。それが製材技術と言う物です。

Aランク→300本以上・Bランク→200本以上・Cランク→100本以上・Dランク→20本以上・Eランク→20本以下と五つのランク分けが出来ると思います。

Aランクの樹種はカツラ・シナ・スプルス・アガチスです。Bランクはナラ・タモ・ホオ・アサダです。Cランクはセン・クルミ・キハダ・ペルポックです。Dランクはマカバ・シュウリサクラ・エゾヤマサクラ・チーク・ジェルトン・米ヒバ・米スギです。Eランクはイタヤカエデ・ニヤトー・ジョンコン・バッコヤナギ・ブラックウオールナット・ブラックチェリーです。

アメリカンブラックウオールナットの製材方法はクルミを製材した時の感じを思い出して製材しました。ブラックチェリーはアサダとサクラのイメージを思い出して製材しました。大体製材する前に想像していた中身の予想と結果は大体合っていました。違うとしたらアメリカ広葉樹の原木の芯目の荒さの見方でした。ロシア産のナラ・タモより芯目は少し荒くても、芯節は割と少なかったです。しかし原木の肌に見える盛り上がり、材木屋の専門用語で『コモリ』は侮ってはいけないと実感しました。コモリは必ず節が出ます。材質全体に対して影響の有るコモリも有れば、局部的で逃げられるコモリも有りましたが、アメリカ広葉樹は特に注意が必要だと感じました。

製材本数のA～Eのランク分けはしましたが、必ずしもAランクの樹種だから買い付けも製材方法も間違わないとは絶対に言えません。そうかと言ってEランクの原木で買い付け方法と製材方法が戸惑うと言う事も有りません。実際には最初の出会いと申しましうか最初の見立てで大体は解かります。ぱっと見たとき『いける』と頭の中でインスピレーションが働いた原木の失敗は確かに少ないです。しかし少し迷ったときに失敗は発生しますが、そうかと言って何度もキズを見直して想像『このキズは浅いのか？何処から鋸を入れれば逃げられるか。そして結果自分の思ったようになる場合も有ります。』が出来た原木は失敗が少ないのは事実です。

ところで今後の木材供給側の森林を見たとき原木価格が安定的に推移するとは言えません。特にアジアの温帯広葉樹ロシア・中国産広葉樹の動向には注意が必要だと思います。そして国産広葉樹は品質の低下は益々進むと思います。今後益々仕入れが難しくなるのは解かっていますので、少しでも樹種のレパートリーを広げる努力をしなければならぬと思っています。右記の写真は大阪南港に輸入されたウオールナット原木です。この中から7本選別して仕入れさせて頂きました。



お客様各位へ

拝啓

貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。他でもございませんが服部新聞を毎月、月末に送付させて頂いておりますが今月号（6月号）に限り発行日を6月15日とさせて頂きます。来月からは通常の日に戻す予定をしておりますが、小生の都合で発行日を変える事をご容赦頂けます様御願い致します

敬具

〒596-0011

大阪府岸和田市木材町16-1

TEL 072-438-0173

FAX 072-422-8577

(株)服部商店

服部雅章

2010年6月

お客様各位へ

拝啓

貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。他でもございませんが服部新聞を毎月、月末に送付させて頂いておりますが今月号（6月号）に限り発行日を6月15日とさせて頂きます。来月からは通常の日に戻す予定をしておりますが、小生の都合で発行日を変える事をご容赦頂けます様御願い致します

敬具

〒596-0011

大阪府岸和田市木材町16-1

TEL 072-438-0173

FAX 072-422-8577

(株)服部商店

服部雅章

2010年6月

FAX 072-422-8577

第七回勉強会・木材展示即売会のご案内

【勉強会のお知らせ】

- * 6月26日（土曜日）AM9：30～10：30の予定で第7回勉強会を開催します。
- * 今回上記写真のアメリカ広葉樹原木のブラックウォールナットの製材を予定しています。（→）



【木材展示即売会のお知らせ】（勉強会と同時開催です）

- * ナラ・タモ・セン等の巾広材等現在高騰しています
- * 優良広葉樹製材品を多数用意しています。
- * アメリカ広葉樹製材品も多数用意しています。
- * スプルース乾燥材板もご用意しています。
- * 一部商品に小口にてお買い求めし易いようにしています。当日を楽しみに！
- * 来場者にて5,000円以上お買い求め頂いた方に服部商店オリジナルコースター（4枚セット）を差し上げます。
- * 木材展示即売会にご参加頂ける方で前もってご連絡頂ける方に限りカップラーメン・ペットボトルのお茶を用意しております。



服部商店 木材展示場



オリジナルコースター

会社名	
担当者名	
ご住所	
電話番号	